
2070年、それは世界の終わりであり始まりだった

アラスカの白い道化師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2070年、それは世界の終わりであり始まりだった

【Nコード】

N3171T

【作者名】

アラスカの白い道化師

【あらすじ】

2070年、西暦は終わる。とある一つの宗教が世界の全てを塗り替えてしまったその年、人類は破滅するよりも悲惨な光景を目の当たりにする。

（前書き）

この物語はフィクションであり、現実世界とは何の関係もないことをここに明記します。内容には、ドナルド成分を多少含むので、閲覧の際には多少注意したほうがいいかもしれません。作者はドナルド信者ではなく、ぶっちゃけ勢いだけで書きました。すみません。それでも許せる、という方のみ読んでくれたら幸いです。

2070年、とある宗教が世界を席卷した。

それはまともな人間からすれば異様な光景だっただろう。とある一つの宗教が地球人類全てに多大なる影響を与えていく様は……

実は半世紀ほど前からその前兆は存在していた。それはとある国際的大企業が日本で放送したCMが元凶だった。

「らんらんるー」

ある種独特な容姿を持ったピエロが「らんらんるー」などと踊る様は実に多くの人の心を捉えた。そして、動画共有サイトなどを通じて、その姿は多くの人々の目に触れ、また多くの人を洗脳した。それはまさしく宗教と言っても過言ではなく、某動画サイトでは三大宗教の一角と言われるほどにまで成長した。

しかし、言ってしまうえばそれだけだった。大部分の一般人はそんな現象が起きていることすら知らずに過ごした。某動画サイトでこそ崇められたが、それは大衆に浸透するほどではなかったのだ。

故に、その宗教について日本政府を始めとしてほとんどの国はまともに取り合わなかった。その時点では、やはり世界的には仏教やキリスト教、イスラム教などが世界での多数派を占めていたのだ。

それが劇的に変わったのが2070年。

世界で最も有名で、最も力を持つ企業であったマクナルドが倒産したのだ。

実は、時のアメリカ大統領は大のKFC好きであり、アメリカ軍がKFCの傘下に置かれてしまったことが要因の一つだった。急速に力をつけたKFC。確かに、それだけが原因だったらマクは潰

れなかっただろう。何しろ、売っている品物が全然違つものだから。

ただ、KFCが力をつけたことに対して必要以上に焦つたマクが経営方針を変えたことが一番の原因と言えた。一言で言えば『自滅』である。能の無い人間がマクを経営に携わつたからである。ちなみに、そのときに関わつた人物はKFCの回し者であるという説が有力で、マクの自滅はKFCの陰謀だと言う人も多い。

その倒産のニュース自体は多くのファンを悲しませた。やはり世界にチェーン展開する大企業だけあつて、それが倒産したりリスクは大きかつた。無論、倒産で雇用を失う人間やマクが大好きな人たちのことを考えると、その経済的打撃は計り知れない。故に、マクの事業はKFCが引き継ぐこととなつた。

ただ、これが悲劇に繋がる。

半世紀ほど前に某動画サイトで一世を風靡した道化師による洗脳動画。そんな中暗躍していたのは時のマクナルドの社員だつた。彼らは動画サイトを通じて洗脳を施し、自社の売りに貢献していた。

そんな中で、動画職人であつた彼らは作つてしまつた。圧倒的な洗脳を施すことが出来る動画を。禁書に出てくる魔導書の原典なんかよりも、もっと恐ろしい動画。見るだけで確実に洗脳を施してしまつたレベルの、脳への干渉度があまりにも高い動画を作つてしまつたのだ。確かに、その動画を投稿すれば、凄い効果が得られただろう。しかし、彼らは人として、それを拒んだ。(ちなみに、動画を作成した彼ら自身は道化師の洗脳に慣れ過ぎていて、常人とは明らかに違う脳構造を持っていたため、その動画を見ても大丈夫だつた。無論、それでも多少の禁断症状は出たが。)

結局、その動画はマク本社で厳重に封印されることとなつた。二度と人の目に触れぬようにするために……その動画を削除しなかつたのは、各国政府が核兵器を放棄しないのと同じ理屈で、つま

リマ クの最終兵器として残されたわけだったのだが……

半世紀経った今では、その存在すら知るものはほとんどいなかった。だからこそ、KFCがマ クの経営に携わるようになったときに、マ ク本社で厳重に保管されているそのファイルが何のファイルなのかを知るものはいなかった。

そして、KFCのメンバーはその動画を見てしまった。嚴重な封印を解いて、見てしまった。それはマ クがどんなものを封印していたのか、ライバル企業としての知的好奇心に他ならなかったのだが…… 彼らは軽率すぎたと言えよう。結局、洗脳された彼らは動画をネット上にアップロード、多くの人とその動画を見て、そして洗脳された。

新たな時代の幕開けだった。

まず、宗教が大きな力をつけたのはアメリカだった。やはり、マクの本拠地だけあって、その洗脳速度は速かった。次に洗脳が進んだのは日本だった。動画の元凶たるらんらんーの発祥地だったため、某動画サイトを中心に瞬く間に洗脳が広がっていく。

その洗脳は最早異常だった。皆が街中でらんらんーと叫ぶ、アメリカの大統領が演説中にらんらんーする光景は、この世の終焉を思わせた。健常者は日々、ドナルド信者に怯え、動画を見ないように心がけ、ただただ恐怖の日々を送っていた。そんな中、日本の首相が問題に向けて動き出す。

「私が、この世界同時多発的宗教テロ問題を解決してみせる」
そう宣言した首相だったが、結局2日後には完全に洗脳されて、国会でもらんらんーと叫びだす始末。

もう世界は終わったかのように思えた。誰もがらんらんーと叫び、誰もがハンバーガーを愛する。最早その流れは止められず、街中は黄色と赤と白で満たされていた。健常者にとって、その光景は

恐怖。自分もいつ洗脳されてしまうか分からない状態。なぜなら、信者が動画を見ることを勧めてくるからだ。そして、日に日に増す信者たち。

「ついに、ドナルド教が世界最大の宗教となりました」

そんなニュースが流れた。健康者は涙を流した。信じていた仲間、信じていた恋人、信じていた家族…… そんな人たちが次の日にはドナルド教に染まってしまふ。自分も洗脳されてしまふのではないか、そんな恐怖の中暮らしていく。それは、ある意味拷問とも言えた。しかし、そんな中、希望が現れる。

「人々を救って見せます！」

そう言ったのは爛々ルー子。チアガールのような衣装を着た、非常に可愛い美少女である。しかし、彼女はただの高校生だった。そんな彼女に人々を救えるのか。

しかし、溺れる者は藁をも掴む。人々は最後の希望に思いを託した。それなのに、

「では、世界を救ってみませますね」

そんな彼女は人々に洗脳を施していった。まだ動画を見ていない者には、色仕掛けで騙して動画を見せる。それでも見ない者には、彼女の親衛隊が無理やり押さえつけて見させられる。

おおよそ、世界の救済とは真逆の行為を行っていた。そんな彼女に対して、一人の少年（彼女のクラスメート）が立ち上がる。

「おい、どうということだよ！」

人々を助けると言ったはずの少女に対して叫ぶ。しかし、返って来た答えはそつけないものだった。

「皆、自分が洗脳されることを恐れている…… でも、一度洗脳されてしまえばもう怖いことはないわ。それに、世界が一つの宗教に纏まれば争いはなくなる。確実に平和でいい世界が待っている。そ

れこそが、『世界の救済』でしょ？」

そんなことを言う少女に対して、少年は怒った。そんなのは『世界の救済』なんかじゃない。ただの押し付けだ。人の心を支配するようなやり方で得られる平和なんて、本当の平和ではない。そんな気持ちで、少年は一言で表した。

「そんな、馬鹿げてるZ E」

「はあ〜」

彼女は溜息をつく。

「あんたはドナルド教の素晴らしさを知らないだけ…… あんたもじきに分かる」

「俺は絶対に観ないぞ！」

少年は言ったが、

「そう？」

少女は少年に近づいていく。それだけで、少年はドキドキした。

少女がめっちゃ美少女だったからだ。可愛らしさが留まるところを知らない少女。そのピンクで柔らかそうな頬とか、みずみずしい唇とか、きよろきよろした瞳とか、もう全てが完璧なまでに調和した、言うならば一つの芸術。美しい、なんて言葉さえ陳腐に思えるような少女。

そんな少女を前にして、少年の心臓の鼓動スピードは頭文字Dだった。

「なななななな、なんだよ？」

「じゃあ、一緒にやってみよう」

そう言うと、少女は少年に体を密着させる。少女の、発展途上な胸が少年の体に押し付けられる。少年は正直、心臓が爆発して死ぬかと思った。

「らん……らん……るー」

少女は、最早抵抗の出来ない少年の手首を掴むと、らんらんるーをする。対して、少年は既に思考回路は焼き切られているような状態だ。何も疑問に思わず、ただ、少女の言葉を繰り返す。

「らん……らん……るー」

それだけだった。動画を見るまでもなく、少年は洗脳されていた。「ちよろいものね…… 美しすぎるってのも罪なのかしら？」

少女は軽く洗脳を済ませると、次の人間を洗脳していく。

そして、2070年12月31日。世界全人類の洗脳が終わり、80億人がドナルドを崇めた。そう、その日に世界は終わったのだ。全てがらんらんーに染まったその次の日、西暦が終わりを告げた。それはドナルド暦0年。それは人類がかつて経験したことのない新しい時代の始まりだった。

(後書き)

このあと、どうなってしまうんだろう？ 作者の私でも想像したくないような世の中になってしまっているのかもしれない……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3171t/>

2070年、それは世界の終わりであり始まりだった

2011年5月18日02時11分発行